

# 京都大学理学部で数学を学ぶということ

数学・数理解析専攻  
専攻長 坂上貴之

皆さんご卒業おめでとうございます。理学部の他系には、学生さんが個々に所属する研究室があるので、卒業証書の授与とお祝いは研究室単位で行われるそうですが、数理科学系にはそういった単位がないため、系全体として皆さんのこれまでの学修成果を顕彰すると同時に、新たな旅立ちの門出をささやかにお祝いしています。多くの皆さんにとっては大学の卒業式は人生に一度ですが、私は昨年度も専攻長代理として祝辞を述べる機会があり、今年度は専攻長として再び祝辞を述べさせてもらうことになり、ここで発表した内容は同窓会誌にも掲載されるということで昨年と同じ話題を披露することもできず、祝辞にもマンネリにならないように注意したいと思っております。

今日は京都大学の理学部で数学を学んだことの意味についてお話してみたいと思います。もちろん、京大数学といえば過去に多くのフィールズ賞受賞者を出しており、日本の数学研究・教育の「センター」の一つです。ここで教授される数学は、世界的に見ても非常に優れたものですから、この教育を受けて卒業をされる皆さんは間違いなく世界水準の数学基礎力を身につけたということが、この卒業によって証明されたこととなります。これは胸をはってよいことです。また、多くの人は、これから大学院に進学して今度は研究レベルの最先端の数学に触れる機会を持つことになると思いますが、学部で学んだ数学は専門的な数学を学ぶ上の確かな礎となります。社会に出る皆さんも、これから働く様々な場面で数学や数学を学ぶ上で行った様々なこと、文献を調べたり、決して他人に判断をゆだねず自分が理解できるまでとことん考えたり、先生とともに議論をしたり、という数学を学ぶにあたって行ってきた一つ一つのことが目に見えないところで役立つこととなります。

さて、皆さん入学したときに「理学部ゆるやかな専門化の理念ののもと一学科制をとっている」と説明されたのを覚えていますか。この理念に基づいて3年次に系登録をするまでに広く理学全般のことを学んだと思います。また、系登録後も他系の専門科目の単位をとった人もいるのではないのでしょうか。実はこのことも京都大学で数学を学んだことのメリットなのです。数学という学問は常にいろいろな科学の発展と強く結びついて発展してきましたから、その記述言語としても他科学分野でも用いられています。京大理学で数学を学んだ皆さんであれば、あたりまえすぎて気がついていないかもしれませんが、皆さんの中には、決して数学の狭い分野に閉じこまることなく、他分野との関係を意識しながら数学を考える・見るという姿勢が自然に身につけているはずです。こうした総合的見識は、ややもすると専門性の壁の中で閉塞的な状況が生まれたときに自らをより高い視点を得るのにきっと役立つことでしょう。こうした視点を持った卒業生が出せるのも京大理学部数学の魅力と私は感じています。

皆さん、これから大学院に進学して、より専門的な数学を学ぶにせよ、就職して数学とは直接関係のない仕事につくにせよ、京都大学で数学を学んだことの意義と意味を胸に、それぞれの新しい世界に旅立って欲しいと思います。

